

ユニバーサルデザインに配慮した整備

琵琶湖博物館では、令和2年度まで3期に分けてリニューアルに取り組む中で、多様な人が訪れる施設として、誰もが使いやすく楽しめるように、ユニバーサルデザインに配慮した施設整備を図りました。

第1期から第3期までの実施設計時や施工時に、障害のある方（車イス利用、オストメイト、視覚障害、聴覚障害、ダウン症）、介助に携わる方（手話通訳士、養護学校教諭、オストメイト介助、視覚障害介助）を構成委員とするユニバーサルデザイン評価会議を開催（計11回）し、その観点での意見を伺い、検討結果を踏まえて可能な限り整備しました。



主な整備内容

誰もが快適・安全に移動できる空間

- 段差の解消
- 手すりの設置
- 車イスの通行幅確保
- 自動扉の設置

(各展示室・樹冠トレイル)

(アトリウム)

誰もが利用しやすい施設

- 車イスでも利用しやすい展示台（高さ、角度）
- 多目的トイレの改修
（オストメイト、介助用ベッド、扉軽量化など）
- 誘導用チャイムの設置

(各展示室)

(本館・別館トイレ)

(正面玄関)

誰もが楽しく体感できる知覚型展示

- 触れる展示
- においの展示

(各展示室)

誰もがわかりやすい表示

- わかりやすい館内サイン
（色覚異常に配慮した配色、読みやすい文字）
- 読みやすい解説パネル
（漢字を小学5年生レベル、漢字に振り仮名）
- 多言語対応（音声ガイドの整備 7か国語）

(各展示室)

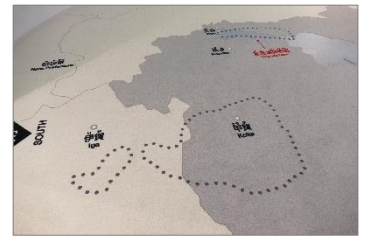
整備内容

第3期リニューアルにおけるユニバーサルデザイン評価会議での意見を踏まえて整備した主な内容

【A展示室】

① うつり変わる琵琶湖（「2 琵琶湖と生き物のものがたり」ゾーン）

床面の地図に古琵琶湖があった場所を点字ブロックで表示。
意見を踏まえ、鋸の間隔が狭いものを選定した。



② 氷期の冬の気温体験（「5 うつり変わる気候と森」ゾーン）

氷期の冬の気温（-10度）を装置から噴出される冷気で体験。
意見を踏まえ、ボタンは高さを手前70cm 後ろ75cmで斜めに設置し、球状の膨らみがあるものを選定した。冷気の噴出口の周辺部は広く平らなものにした。



③ 過去の地形模型（「6 琵琶湖の生き立ちと私たち」ゾーン）

湖の位置や地形の変化を木製の地形模型（6種）を触って認識。
意見を踏まえ、模型の周囲に木枠を設け、設置角度を30度とし、琵琶湖博物館の位置を定点とするポイントを設けた。



【B展示室】

① 粟津湖底遺跡（「1 私たちの暮らしのはじまり」ゾーン）

ストレッチャー利用の方も床下が見えるように壁面にミラーを設置。（ほか「2 森」ゾーン、「3 水辺」ゾーンにもミラーを設置）
意見を踏まえ、ミラーの角度を45度、横幅を180cmとし、鏡文字で解説文を表記した。



② におい展示（「2 森」ゾーン、「3 水辺」ゾーン）

装置からただよう「マツタケのすき焼き」「しじみ汁」のにおいを嗅いで体感。

意見を踏まえ、台の高さを手前70cm 後ろ90cmで斜めに設置し、筒のトップは85cmの高さに設定した。



③ 丸子船（「4 湖」ゾーン）

段差を解消し、誰もが丸子船に近づけ、触れるように整備。

意見を踏まえ、スロープを設置し、手すりを設け、触って全体像が把握できるようにレリーフを設置した。

